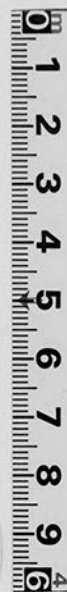


香車

第四輯 · 九月號

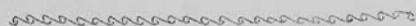


香 車

第 四 輯

• 西曆一九二六年九月出版 •

香 車 詩 社 發 行



第 四 輯

目次	松本純一
點心	三野混池
詩二篇	段塚青一
海月	中野大次郎
晩春と二ヒリズム	末繁博一
詩二篇	五十嵐節郎
黄昏のうた	高瀬勝男
詩一篇	矢車叢人
無題	石川武光
刑務所風景 外一篇	高橋水聲
詩二篇	
・編輯後記・	

九 月 版

點心

松本純一

道は草おらにつき果て
一本の陸のさんご樹
白い風景が布のやうにひく
そこに――
蟻が生々しい卵を運んでゐる
刹那 心臓は咬み合ひ
足は地に根張つて動かない

詩二篇

三野 混 池

土から生れろ

生れろ

柔らかなこゝろが指先から生れろ

この幼いものまで

よろこんで生を吐く

われあのその手の下に自由に

その心 びさいなもののまでも及んでゐた

無碍の空こそは

かつておれらはどんなにあこがれ

おれらじしんをれであつたか

鳥のやうに泣く

泣く

うんと泣く

土にむれてゐるおれら

自然にわかれ

自然による

無業

そしておれらは実に柔い武器もて生をまある

土の色よ！

窓毎にあつた

そして文窓よ！

一杯

一杯

波うたせる

海 月

段 塚 青 一

煙の如に
海月が灯つてゐる

海月が灯つてゐる
海の底の底

晩春とニヒリズム

中野大次郎

夜露を吸ふ生々しい群像
瘦せた月を殺戮せんとする文藝家

鮮人土エをつきとばして
(バンショウ)が芝生を這ひあがる

ECHO V . . . Echo . 群 衆 心 理 .

梅林に吊り下げられた絞首台で
しきりと月の吐息を絞つてゐるあいつ！

詩二篇

魚捕り

照せ

お日様よ

川は流れておるからよ

子供は一生懸命だ

Ⅱ せみと子供

子供が泣いてゐる

たぶん

せみであるかわ知れない

その泣き聲が



おほきくなつたかと思ふと
だんだん

小さくなつたりしてゐる

あんあん あ

あんあん あ

これは子供の泣き聲である

それからもう一つの聲も

やつぱり

あんあん あ

あんあん あ

黄 昏 の う た

五十嵐 節 郎

月のでしほのうすあかり
み空も山も野も海も
それとわかれたぬうすあかり
われはかばかりおもひどち
ひとの心はせて知らぬ
寂しきかなやわれとわが
吹き鳴らしたる草笛の
哀しき声につらぬかれ
大あめつちのたゞなかに
力なく立つ影ひとつ

高 瀬 勝 男

みんながみんな あみださまを信心して
おられることばいいことです

愛しておること と

愛されてゐることが心ゆくまでの涙となつて
くれたらどんなにか

自分はいいことをしたと思ひます

無題

矢車葦人

人間犬

猫尻迷立

犬情猫眼

くりくり

蒼白い想念の象徴

発賣禁止

刑務所風

景 外一篇

石川武夫

青空の下で

囚人達が野原の草を摘んでゐる

屈んだ影が動く毎に

頭のあみがさが重たさうだ

片隅の鎌瓦層でも油蟬が鳴いてゐる

接吻

黄昏の空

波状線は強弓の様に張りきつてゐる！

詩二篇

高橋 永 鼓

うれきつた西洋いちごのやうな
梅毒患者の頬ッペタだ
早く早く 退け退け
俺はそのアザッ面がおそろしいんだ
からだ全体がおそろしいんだ
店ッ先の電柱がひろがり ひろがり
こんなちひろがつても
まだだけないで居るのか
あしがふるふる ふるておる
かいとが地に落ち附けない

今夜は来んだって
こんなちろに蚊の奴がうるさいんだ
俺のからだのとてむすつかい血を
それほど吸ひたいんだか
来ア こんなちろにほけずおれよりあ
あれあすこに居る男と女と男の
ふっ切れさうな
地についたらはずみ返るかお知れまい
あの奴らの血潮を吸ひ取つてやれ
いくらでも いくらでも
いくら吸つたって構ふもんか
蚊帳をくち切つて
そしてやせるまですつてやれ

◆ 編輯 燕言 ◆

▼ 一た水のしづくの中に詩を見え出せ
それほちがて大海と来るであらう

▼ 僕らの生活がいよいよ展開される時だ
お互に手と手を握って接しあて
すなほにすなほにぞして進んで行かう
決して決してあわてずやいやいけずい

いつの間にか四輪の香車が出るやうになつた
しつかりしつかり大地を踏みつづける

▼ 遠くを歩編してくれた、群像の登場、
菊の末、欽奈、高氏に情に感謝して、
文學のネゴトのこと

▼ 地方の同人詩誌が諸般の苦しみを経験して「
るんだか？」
を行き来りとも詩は詩であらう、
三行ありとち、おしんば一行ありとも――

▼ ほかは何一つ出来さういふウンスン……
モランのホンマフがどれほどか、極であつた
らう、
ウヌボレを、みりなして喘づくしよひ。

▼ 断り書、キリガセツと氏作の「
を或る事情のため取消す。

▼ ミンナ堀口のネゴトなど、大に大に
おんみらの耳を映けてはいけな
おんみらたちの元の大さな手て、堀口の
口をふさいでしまふことをなれる本。

・ 次 輯 九 月 二 十 五 日。
(水産記)

大正十五年八月三十日印刷
大正十五年九月一日発行

1926.9. 香車第四輯

福島縣石城郡赤井村田町
発行所 香車詩社

福島縣石城郡赤井村田町
発行所 香車詩社
・ 非 高 日 四 ・

